

富士山静岡空港指定管理者評価委員会の評価結果

1 要旨

富士山静岡空港の指定管理業務について、管理運営の状況を客観的に評価し、その結果を次期の指定管理者選定及び業務実施に反映するため、外部評価委員による評価委員会を開催した。

2 概要

(1) 日時 平成 25 年 8 月 7 日 (水) 午前 10 時 30 分から午後 2 時まで

(2) 場所 県庁本館 4 階 特別会議室

(3) 評価委員 (6 人)

区分	氏名	役職等
委員長	山内 弘隆	一橋大学大学院商学研究科教授
委員	小田 博之	全日本空輸(株)静岡支店長
委員	柿下 央	(株)フジドリームエアラインズ静岡空港支店長
委員	朴 淵求	アジアナ航空(株)静岡支店長
委員	花岡 伸也	東京工業大学大学院理工学研究科准教授
委員	福田 隆之	新日本有限責任監査法人 インフラ・PPP 支援室長

(4) 指定管理者名 富士山静岡空港株式会社

(5) 評価結果

ア 年度評価 (90 点満点・合格ライン 70%・63 点)

平成 22 年度から 24 年度までの各年度の指定管理者の管理運営の状況について、管理運営の実績に基づき評価を行った。

【評価結果】

「各年度とも合格ラインに達しており、空港の管理運営にあたり、空港の安全・安心を最優先として取り組み、航空機の運航に支障となるような問題も無く実施し、また、空港利用者の利便にも柔軟に対応するなど、委員会での評価と自己評価との間で若干の差異はあるものの、指定管理者としての所期の目的を達成している」と評価された。

<各年度ごとの事業の執行状況に対する評価>

年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	(参考)平成 21 年度 (80 点満点)
点数	72.0 点	75.2 点	75.9 点	64.7 点
割合	80.0%	83.6%	84.3%	80.9%
判定	合格	合格	合格	合格

イ 期間評価 (指定管理期間 (平成 21 年度～25 年度) 中の取組に対する評価)
指定管理期間全体における指定管理者の管理運営状況などから、指定管理

者に期待する成果の達成度を検証し、指定管理者による管理運営の効果が認められるか評価を行った。

【評価結果】

指定管理者に期待する成果の達成度について「成果が達成されている」と評価され、指定管理者制度による管理運営の効果についても「おおよそ認められる」と評価された。

富士山静岡空港指定管理者評価委員会評価結果集計表

- 評価点: 5 仕様書で求める水準以上の成果が達成されている
 4 仕様書で求める必要な成果が達成されている
 3 仕様書どおりの実施であり取組みは評価できるが、成果が不十分である
 2 仕様書どおり実施できなかったが、空港運営に支障は生じなかった
 1 仕様書どおり実施できなかったため、空港運営に重大な支障が生じる恐れがあった

項 目	平成22年度			平成23年度			平成24年度			備考
	評価点 A	自己評価点 B	評価差 A-B	評価点 A	自己評価点 B	評価差 A-B	評価点 A	自己評価点 B	評価差 A-B	
I 設置目的等の達成度	15.5	18	-2.5	15.5	18	-2.5	16	18	-2	
1 空港の安全管理に対する取組み	4.3	5	-0.7	4.3	5	-0.7	4.3	5	-0.7	
2 利用者の利便性に対する取組み	4.5	5	-0.5	4.5	5	-0.5	4.7	5	-0.3	
3 民間ならではの創意工夫の発揮度合い	6.7	8	-1.3	6.7	8	-1.3	7	8	-1	
II 空港の管理運営状況	33.6	35	-1.4	34.7	37	-2.3	34.9	37	-2.1	
1 空港土木施設の維持管理業務の実施状況	4	4	0	4.3	5	-0.7	4.3	5	-0.7	
2 飛行場灯火等の維持管理業務の実施状況	4	4	0	4	4	0	4.2	4	0.2	
3 空港警備業務・鳥獣防除の実施状況	4.2	5	-0.8	4.3	5	-0.7	4.3	5	-0.7	
4 消火救難業務の実施状況	4.7	5	-0.3	4.8	5	-0.2	4.8	5	-0.2	
5 駐車場管理業務の実施状況	4	4	0	4.5	5	-0.5	4.5	5	-0.5	
6 空港運用に係る支援業務の実施状況	3.8	4	-0.2	3.8	4	-0.2	3.8	4	-0.2	
7 航空機給油施設管理業務の実施状況	4.7	5	-0.3	4.8	5	-0.2	4.8	5	-0.2	
8 緊急事態発生時等の県との連携状況	4.2	4	0.2	4.2	4	0.2	4.2	4	0.2	
III 管理に係る経費の縮減	7.5	8	-0.5	9.2	10	-0.8	9	10	-1	
1 経費縮減への取組(方法、創意工夫)	7.5	8	-0.5	9.2	10	-0.8	9	10	-1	
IV 管理・監督体制等	15.4	16	-0.6	15.8	16	-0.2	16	16	0	
1 執行体制等	3.8	4	-0.2	3.8	4	-0.2	3.8	4	-0.2	
2 人的能力等	3.8	4	-0.2	4	4	0	4.2	4	0.2	
3 委託時の体制(指導監督体制など)	3.8	4	-0.2	4	4	0	4	4	0	
4 業務上知り得た情報の管理の体制・個人情報の保護	4	4	0	4	4	0	4	4	0	
合 計	72	77	-5	75.2	81	-5.8	75.9	81	-5.1	
合格点	63			63			63			

富士山静岡空港指定管理者評価委員会における 各委員からの附帯意見（概要）

年度評価

I 設置目的等の達成度

- コンパクトな組織を生かし、課題の共有、機動的な対策が実施され、又、細かな新たな取組みをするなど、全般的に達成度は高い。
- 少人数で空港を運営する取組み努力を評価したい。
- バードパトロール及びバードスイープについては、静岡空港でのバードストライクの発生割合が社内（委員の航空会社）の実績では他空港よりも高いため、もう一段の対応をお願いしたい。
- 民間的工夫は人的能力、組織問題に留まっている。
- 旅客に対する利便性の取組み範囲が限られている中で、何ができるのか、今後の取組みに期待したい。
- 民間としての創意工夫は難しいと思うが、例えば、オフピーク時の費用削減策を考えるなど、より一層の努力を期待する。
- 職員のマルチタスク化は良い方策なので進めて欲しい。
- 仕様書に示された業務については、期待通りの成果をあげていると認められる。ただし、仕様書の範囲内での創意工夫には限界があるように思われる。
- 平成 24 年度の不審者侵入問題は、対応について適切であったか、事前の防止対策が重要。

II 空港の管理運営状況

- 概ね良好な運營業務ととらえる。鳥獣対策、消火救難業務に工夫の結果が見られる。
- 給油業務については、きめ細かい対応がなされている。
- コンパクトな空港であることで効率的な管理運営を実現できており、これに加えて細かな事案に目配り気配りを重ね、安全な空港管理を実現させている。
- 各種訓練等について、部分訓練等、指定管理者が自発的に主導して行っているものもあり、評価できる。
- 作業の内製化等の努力にとり、経費縮減につなげていることも評価に値する。
- バードスイープ対策・実施は良くできていると思う。
- 災害発生時における支援業務体制のため、担架搬送やトリアージの訓練実施はとても有用なので、今後も続けて欲しい。
- 空港運用に係る支援業務について、東海大地震が仮に発生した際に静岡空港の担う役割は非常に大きいので、その対応、取組みをより具体的に県や国と考

て欲しい。

- 空港の運用という観点で、この空港を盛り上げていくための施策も考え、実施してほしい。航空会社のニーズを県に伝えるなど、できることがあるのではないか。

Ⅲ 管理に係る経費の縮減

- 創意工夫されていることは理解できる。
- その取組みによって、利便性、安全性などの低下を感じさせていないことを評価したい。
- 職員の多能化の努力が認められる。更なる多能化を目指していただきたい。
- 駐車場の人員縮減は評価したい。
- 最大の支出項目である土木施設維持管理費の一層の縮減に期待したい。
- 警備員配置の見直しを考えたのは見事。ただ、大きな成果を他にもあげてほしいところ。
- 細かい点に気配りが見られるが、全体的な効率化の意欲が十分には感じられない。

Ⅳ 管理・監督体制等

- 全国的に見ても珍しい、空港の管理ノウハウを持つ民間企業を作りあげつつあり、成果が認められる。
- 多能工化の取組みは、成果があがるまで時間がかかるが、続けてほしいところ。
- 人的能力の向上など長期的な取組みを評価したい。
- 勤務時間については、2シフトでの対応をとられており、要員縮減の努力が認められる。
- 概ね良好であるが、さらなる工夫が求められる。

Ⅴ その他

- 空港電子掲示板にハングルで案内されるように要請お願いいたします。

期間評価

指定管理者に期待する成果の達成度

- ゼロから空港管理会社を立ち上げ、成果を挙げている富士山静岡空港株式会社の努力には本当に頭の下がる思いである。

指定管理者制度による管理運営の効果

- 県と会社の二重管理が前提となっている指定管理者制度の妥当性については、再度検討すべきである。

管理運営のあり方

- 管理運営のあり方については、静岡空港の活性化を念頭に置いた方向でお願いしたい。
- 効率化と改善を念頭に置いた運営体制を作っていただきたい。
- 民活化の理念を維持しながら、ビジネスモデルを発展させていくという答申を尊重し、官民協調による空港の新たな運営体制を構築するという、方向は正しいのではないかと。
- 記載されている課題の認識が重要。空港自体の活性化や運用の効率化が発揮できるような体制としてほしい。